



**PROFILE**  
小川警察署 交通課  
係長 立花 信明さん

交通事故の原因の大半は、前方不注意、安全確認であり、県道や主要地方道などの幹線での発生が最も多いという。「注視して見ていれば防げる事故も多いです。大半の事故は一瞬の気の緩みで起きています」と立花さんは指摘する。急いでいても、ほんの数秒安全確認するだけで防げる事故は多くなる。また、「自分自身が事故に遭わないように工夫

## 事故ゼロの町へ— 気づいていますか？ 身近に潜む 危険

いつどこで起こるかわからない交通事故—。

私たちの暮らすときがわ町でも発生している。今回は小川警察署交通課の立花さんに、交通事故の傾向や注意すべきポイント、運転に不安を感じている方への支援について解説していただいた。事故を未然に防ぐために、今、私たちにできることを考えていく。

### その一瞬が、一生を変える

「交通事故は週末(特に土曜日)の発生が多く、時間帯は9時から18時までの日中に約7割が発生しています」と立花さんは強調する。町内には自然が魅力的な観光施設が多数点在しており、町外からの観光客が多く訪れる。そのため週末の交通量は増加する傾向にある。さらに、買い物や通院などで移動する高齢者も多いため、日中の事故の発生リスクが高まっている。

### 数字から読み解く、町の交通事故

「ときがわ町の事故件数は減少していますが、高齢者の負傷率は増加しています」と話すのは小川警察署交通課で係長を務める立花さん。令和7年(8月31日現在)に、ときがわ町で発生した人身事故の負傷者は10名となっている。このうち6割が高齢者。昨年の同時期と比べ大幅に増加した。

「交通事故は週末(特に土曜日)の発生が多く、時間帯は9時から18時までの日中に約7

# 駐在さんが選ぶ ときがわ町の危険箇所

町内の危険箇所について把握するため、西平、明覚、玉川地区を担当する3人の駐在さんに話を伺った。各地区の特徴や駐在さんが特に危険だと思う場所について紹介していく。

## 西平 地区



西平駐在所  
諒訪 武志さん

西平地区は、平日はダンプカーなどの大型車両の通行が多く、休日は町外から多くの自転車利用者が訪れるという特徴がある。特に、自転車やバイクなどの二輪車による事故が四輪車よりも多く発生している。無理な追い越しや速度超過は厳禁。



1\_自転車どうしの事故がおきた場所。見通しが悪く、木が生い茂っているため日中でも暗い 2\_急こう配で急なヘアピンカーブになっており、車同士の事故がおきた場所 3\_すぐ近くに碎石場があり大型車の通行が多い

## 明覚 地区



明覚駐在所  
長澤 基樹さん

明覚地区は、駅の利用者や通学する児童・生徒が多いため歩行者の姿が目立つ。また越生～小川間を行き来する車が多く、他県ナンバーの車も多い。道に不慣れな運転者の事故の割合も高く、自分の安全だけでなく相手への配慮や注意も必要。



1\_交通量が多い田中の交差点。特に越生～小川間はスピードを出す車や、大型車両の通行が目立つ 2\_付近には小学校、中学校があるため、通勤・通学の時間帯は横断歩道を渡る児童や生徒に特に注意が必要となる

## 玉川 地区



玉川駐在所  
廣田 進矢さん

玉川地区は、夕方の西日によって信号が見えづらくなる場所が多い。また、和田橋や玉川橋での接触事故も発生している。令和8年9月施行の道路交通法施行令の改正により、法令速度が60kmから30kmになる生活道路もあるため注意が必要。



1\_今年の9月に事故が発生した田黒の交差点 2\_急な左カーブの先に信号があるため、信号待ち車両に追突する危険がある。補助信号の適切な利用が求められる

## 安全運転相談窓口

048-543-2001  
(音声ガイダンス④)

不安を感じたら、まず相談！



することも大事。反射材を付けることで、運転者から認識されやすくなり安全性が高まります」と立花さんは続ける。夜間、運転手からの視認距離は黒色の服装で26m、白色の服装で38m、反射材着用で57mとなっている。

令和6年、ときがわ町での免許返納者数は40名であり、なかでも80歳～84歳が16名と一番多くなっている。免許返納には周りのサポートが欠かせない。高齢者本人が安心して新しい生活を始められるよう、家族や地域の理解と協力が大きな力になる。「自分の運転に不安を感じるようになった方は、警察の安全運転相談窓口のご利用を」と立花さんは話す。自分の運転を過信せず、冷静に見直す姿勢が求められている。